

2025 年 在宅医療専門医試験結果報告

受験者数：79 名（研修プログラムコース：39 名、実践者コース：40 名）

合格率（全体）：62.0%

合格率 コース別内訳（研修プログラムコース：64.1%、実践者コース：60.0%）

合格率 受験回数別内訳（初回受験者：71.2%、再受験者：15.3%）

総評：

全体的な合格率は 70%を下回り、昨年度（合格率：68.3%）を下回る結果となった。1）一次審査（ポートフォリオを含む書類審査）、2）二次審査：筆記試験（MCQ 試験）、3）二次審査：WEB 面接（ポートフォリオ面接）の三段階選抜における、それぞれの合格率はそれぞれ 84.8%、98.5%、74.2%であった。

プログラムコースと実践者コースの受験生間においては、合格率の有意差は認められなかった。一方で、再受験者における合格率は著しく低く、特に一次審査（ポートフォリオを含む書類審査）において、半数以上が不合格となった。その多くは、前回提出されたポートフォリオに十分な改善（ブラッシュアップ）が認められないと判断されたものであった。

本年度より、実践者コース受験生を対象に、ポートフォリオ作成能力向上を目的とした受験登録制を導入し、登録者には動画教材による事前学習を義務付けた。今後は、再受験者に対する取り組みとして、ポートフォリオの改善度（ブラッシュアップ率）やポートフォリオ講習会参加に関する規定を設け、学習支援を実施する予定である。

ポートフォリオ面接で不合格と判断された理由が多かったもの：

- ・ 医学的実践の質（標準的診療、ガイドライン等に基づいた診療など）が標準レベルに達していない
- ・ 自身の実践に対する振り返りや省察が乏しい（症例報告、文献考察に留まっている）
- ・ 独断的な判断や、ひとりよがりな実践に陥っている可能性がある、多職種協働の実践が感じられないと判断された。
- ・ 1 例報告が多い、フレームワークを適切に理解し実践に落とし込めていない。
- ・ 終末期やがん疼痛緩和に関する症例経験・臨床実践が少ないなど、経験に偏りがある。
- ・ ポートフォリオの評価は合格基準だが、全体的に専門医として症例数や実践経験が不足であると判断された。
- ・ 自身が主治医として担当していない事例を記載、または症例数としてカウントしていた。
- ・ 医療的な倫理的規範を逸脱する実践行為の可能性が疑われた。

今後、専門医委員会では、専門医制度の質的向上を目指し、認定医・専門医・指導医に関する資格制度の見直しを行い、在宅医療の基本理念、教育制度や在宅医療を取り巻く社会的ニーズにより適合する制度設計（グランドデザイン）を構築し、皆さまに発信していく予定です。これに伴い受験規定が変更となる可能性がございますので、受験を希望される方は、必ず学会からの案内を確認のうえ、受験申請を行っていただきますようお願いいたします。